

# 議会報告会報告書

開催日時	令和6年5月13日（月）午後7時～8時30分	
開催場所	松阪公民館 講座室	
委員会名	総務企画委員会	
出席議員	・楠谷さゆり委員長 ・深田 龍副委員長 ・森 遥香 ・小野 建二 ・米倉 芳周 ・堀端 脩	
	司会進行者	(第1部) 深田 龍 (第2部) 深田 龍・小野 建二
	報告者	(第1部) 小野 建二 (第2部) 森 遥香
	記録者	・米倉 芳周
参加人数	第1部 11名	第2部 11名
第2部形式	2グループによるワークショップ形式	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	
委員長の所感	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 坂口秀夫 様

令和 6 年 5 月 3 1 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

総務企画委員会

委員長 楠谷 さゆり

## 第1部

### 【主な質疑応答・意見等】

問 地域防災活動推進助成金157万円について、

- ・助成の対象は。
- ・防災を担う人材の育成に伴う経費については、自治会等や個人負担となるところが、多々ある。市のバックアップはないのか。

答 人材育成の観点から、主に防災リーダーの資格取得に対する助成と地域の防災活動に対する助成である。

その例としては、地域の防災訓練経費への助成や自主防災組織の立ち上げ時に伴う防火ホース等の資器材、また、老朽化した備品等に利用していただきたい。

意見 ・防災研修で助成金を2度利用したことがあるが、交通費は対象外であるのと、経費の1/2で、上限が3万円の縛りがある。助成制度の拡大を願う。

・三重防災センター研修で、13万円から15万円の研修費となる。助成金を増額してほしい。

・不足部分は個人負担や自治会から経費を捻出しているが、「当予算は、なんにしても、しれた金額と思う。」人材育成以外にも、もっと地域が活性化できるような政策を期待する。

問 固定資産税について

・空き家となり、これを解体をすると、その宅地の固定資産税がそれまでの金額より高額になると聞く。この対応策はあるのか。

答 固定資産税については、国の制度であるが、市の空家対策の一環でもあ  
るで、助成金等の利用の面で検討する必要があると考える。

ただ、この現象は、本来、宅地課税された予定額が、家を建てると予定額の1/6となり、家を解体すると、もとの予定額となるということである。

また、今後に関連してくる事項として、「管理不全空家」という制度ができた。今までは、空家から特定空家の移行であったが、特定空き家までの経

過途中での管理されていない「管理不全」の空家を指定するものである。全国的に、まだ始動したばかりで、ガイドライン等の確定はどの市町もできていないが、今後、動き始めると、新たな展開もあると考える。

## 第2部

### 【テーマ 新しい防災・能登半島地震からの新たな発見】

#### 【開催形式】

(2班グループによるワークショップ形式)

#### 1. 能登半島地震の被害概要について

- ・発災日時 令和6年1月元旦 16時10分
- ・マグネチュード 7.6
- ・最大震度 7
- ・死者数 245名                      ・負傷者数 1,302名
- ・全壊家屋 8,536戸                  ・半壊家屋 19,015戸
- ・最大避難者 51,605名

#### 2. 議論のポイント

- ①能登半島地震発災でわかったこと・感じたこと。
- ②災害の不安・心配事。
- ③避難所で大事なもの・足りないもの。
- ④水の確保はできているか。
- ⑤T・K・B48 (トイレ・キッチン (温かい食事・栄養) ・ベッド (睡眠)) の48時間以内設置の重要性。

#### 3. 班別

- ・Aグループ                      担当 森 遥香・小野 建二
- ・Bグループ                      担当 米倉 芳周・堀端 脩

#### 4. 【A・Bグループ意見等】

・正月に実家の輪島へ帰省していたので、被災した。市内で大規模火災があり、自衛隊の駐屯地へ避難した。その後、中学校に避難所が開設されたので、そこ

へ移り、しばらくそこで滞在した。

避難所では、多くの市の職員と思われる方が、対応されていたが、行政にとことん頼らず、地域の者も、開設、運営を行うべきと感じた。

体験してわかったことだが、排便の処理が大変であること。マンホールトイレはあるものの、地震で隆起して使い物にならなくなっていたので、トイレがなく、排便の人的処理が必要であった。それを職員の方が行っているのを見て、いたたまれなかった。

食べ物も水も必要だが、やはり、トイレが一番であると感じた。まず、凝固剤の確保を推奨する。どの自治体もそれがおろそかになっているのではないかと思う。

- ・避難所で、障がいをもっている方も多い。「イヤーマフ」の必要性を感じる。

- ・大人は避難所がどこにあるのかさえ知らない方がいる。小中学校での防災教育のお陰で、防災について、子どもがよく知っていて、よく考えている。見習うべきと思う。

- ・現在の自動車は、防災対応できない車が多いと思う。特にEV車は故障の場合、ディーラーではなく工場での修理となることもある。能登半島地震をみて、軽のジムニーを購入した。

- ・用意周到にしているので、能登半島地震がおこって、改めて用意すべきと感じることはなかった。日ごろから、あらゆることを想定し、準備し実行することである。

当地は「東南海トラフ」を控えているから。

- ・能登半島地震の発災後、5か月が経過したが、最低限の復旧が、こんなに進まないのか。と思った。この状態が続くと、生活の立て直しができず、地域から離れていく者が多くなるのではないか。当地でも同様になるのではと思う。

- ・避難所で大事なものの、足りないものは、「優しさと笑顔」である。

- ・私事だが、松阪市の水道水が一番うまく、大好きである。2002年から水道水を備蓄しており、現在400ℓになる。今、2002年ものから飲んでいるが、一向に問題ない。水の備蓄は、松阪市の水道水で十分と考える。

## 5. 【主な質疑応答・意見等】

問 中部台公園の「三銀アリーナ」がペット避難所となっているが、反面、災害時の場合、遺体安置所になるとも聞く。その整合性はどのようになっているのか。

答 風水害の場合は、「ペット避難所」となり、大規模災害の場合は「遺体安置所」となる。

意見 三重県広域防災拠点の南勢拠点が無いので、松阪市に置いてはどうか。松阪市伊勢寺地域が、松阪インターにも近く、災害に強い地域であるため最適地と考え、提案する。

以上

## 委員長所感

本年、1月元旦に発生した「能登半島地震」を機として、新たな防災対策の発見をと議会報告会を行いました。

その意見交換会では、期待以上の意見を頂戴した思いであります。

ご参加者には、能登半島地震で実際に被災した方、小学校での防災教育を体験した生徒の参加。生徒から意見をいただいたのは、おそらく、議会報告会で初めてであると思います。

また、地域で専門性をもって防災を担う人材育成を行っている方、専門的な知識で、防災に取り組んでいる方等、身をもって発する防災の意見には感動さえ覚えました。

その生徒から発した、避難所で大事なもの、足りないものは、「優しさと笑顔である」との意見には、驚きと感動で会場はどよめきました。

日ごろ忘れかけてる言葉に、改めて避難所の運営精神というか、非常時に人が一番必要とするものであると認識しました。新しい発見でもありました。

加えて、必要なのは、「食べ物」より「水」。いや「トイレ」であるとの意見には、実体験によるものとして、今後の防災対策への意識の変革を迫られた思いであります。

今回、第1部での議会報告会においては、予算の詳細部分での専門的な質問もあり、政策を深く見ていただいていることへの感謝と、第2部では、市民の防災についての知識の高さにも認識を新たにしました。

報告会を終えて、参加された方々と防災について共感できたことが何よりの収穫であり、参加された方には、心より感謝申し上げます。

市議会としましては、今回の貴重な意見を、今後の政策に反映すべきと考えております。

# 議会報告会の様子

